

# Temple Ewell 行政教区 Cold Blow が意味する 「風の強さ」に関する考察

—2021-22 年冬の天気予報データより—

宅間 雅哉

## Abstract

Cold Blow is a name for a deserted farmstead isolated on an inland hilltop at the edge of the valley in Temple Ewell Civil Parish in Kent. By analyzing the meteorological data obtained from the local weather forecast, this paper intends to explore the “wind strength” which is supposed to be the source of the meaning “blast of wind” given by the second element of the place-name *blow*. In order to carry out the contrastive comparison with Cold Blow, Folkestone was selected, because the city is located on the coastal level plain in the vicinity. Consequently, it has been concluded that, in the winter season, the “wind strength” at Cold Blow is stronger than that at Folkestone, and that the former result might be based on the fact that the extent of correlation between the directions of the prevalent winds and those of the stronger winds is greater at Cold Blow than at Folkestone.

キーワード：イングランド、地名、Cold Blow、天気予報、風

## 1. はじめに

イングランド南東部のケント州、特にその東部には、ドーヴァー海峡に沿うように Coldblow(s) あるいは Cold Blow という地名が複数分布する<sup>(1)</sup>。そしてこの地名を構成する第1要素 *cold* 及び第2要素 *blow* は、周辺よりも冷たく強い風が吹くという地名所在地の気候特性を示唆すると思われる<sup>(2)</sup>。そこで本稿では、ケント州の港湾都市 Dover の北西に隣接する Temple Ewell 行政教区 (Temple Ewell Civil Parish) 所在の Cold Blow を

対象に、同地名の第2要素 *blow* の語源について考察する<sup>(3)</sup>。

管見の限りでは、現在のところ、地名 (place-name) としての Cold Blow の語源を明確に定義した文献は見あたらない。全イングランドを対象にした Watts (2004) の地名辞典でも、「空想的地名 (fanciful name)」と指摘するにとどまる<sup>(4)</sup>。こうした中、Parsons and Styles (1997) は ME *blou* が「一陣の風 (“blast of wind”)」を意味し、地名の構成要素になった可能性に言及している<sup>(5)</sup>。この ME 一般名詞の成立には、「(風が)吹く」<sup>(6)</sup>を意味する現代英語の一般動詞 *blow* の起源となる OE *blāwan* が関与していると考えられている<sup>(7)</sup>。Wallenberg (1934) は、第2要素 *blow* が「一陣の風」を意味するとの前提に立って、Cold Blow を「周囲よりも高い場所にあり (situated on high ground) (中略) 風に晒される (exposed to the winds)」と述べている<sup>(8)</sup>。また Cullen (1997) は、Cold Blow を「やせた土地あるいは嫌な場所 (poor land or unpleasant places)」のカテゴリーに分類している<sup>(9)</sup>。前者が指摘する厳しい気候条件と後者によるネガティブな土地・場所の認識は、Blow の意味を「一陣の風」とみなすことによって初めて結びつけることができるのではないだろうか。これを踏まえて本稿では、Cold Blow の第2要素 *blow* の意味の原点と思われる「風の強さ」について考察する。

本稿における考察の基盤は、専ら Met Office (イギリス気象庁) の天気予報から得られる風に関するデータ、すなわち風向 (Wind Direction)、風速 (Wind Speed)、最大風速 (Wind Gust) とする。ただし、Cold Blow は予報地点には含まれないので、最寄りの予報地点 Ewell Minnis の天気予報を代替指標とした<sup>(10)</sup>。また Cold Blow における「風の強さ」は、少なくとも他の1地点との比較の上で論じる必要がある。そこで、Cold Blow から南南西に約9.7キロ離れたドーヴァー海峡沿岸の都市 Folkestone を選定し<sup>(11)</sup>、当地の天気予報から、風に関する上記データを収集した<sup>(12)</sup>。これによって、やや内陸の谷状地形の縁で吹きさらしの丘陵上に孤立する Cold Blow に吹く風が、近くの海辺で開放的な平地に立地する都市 Folkestone に吹く風よりも強いかどうかを見極めることを最大の目的とした。これ以降は Folkestone を Fs、そして Ewell Minnis (as Cold Blow) の意味で、これを EM (CB) と表記する。

Met Office の天気予報では、現在、各予報地点における24時間の各正時時点の空模様、気温、体感温度等とともに風向、風速、最大風速が提供

される。風速と最大風速は、いずれも整数で示される。例えば、ある日の午後4時の風向がSSW（南南西）、風速5 m/s、最大風速9 m/sと示されていれば、厳密にはそれらは午後4時時点における風の予報である。しかし、本稿では便宜上、これを「南南西の風が（午後4時から）風速5 m/s、最大風速9 m/sの状態に1時間（1 hour）持続する」とみなして論を進める。

データ収集期間は、2021年12月26日から2022年3月5日までの70日間をとした。期間中は毎日、午前7時から8時（日本時間）の間にMet OfficeのEwell MinnisとFolkestoneの天気予報のページにアクセスし、各日の風速の最大値と出現時間の合計値及び出現時間ごとの風向、さらに最大風速の最大値と出現時間の合計値及び出現時間ごとの風向を記録した。具体的には、例えば2022年1月16日のEM（CB）の記録は次のようになる。この日の当地の予報では、1日24時間の中で風速には3～5 m/sの幅があり、最大値となる5 m/sは午前6:00にSW、8:00にWの風と予報されていた。これを受けて風速の記録は、最大値「5 m/s」で、出現時間の合計値は「2時間」、うち「SW」の風「1時間」、「W」の風「1時間」とした。一方、最大風速には7～11 m/sの幅があり、最大値11 m/sは午前5:00にWSWの風と予報されていた。そこで最大風速の記録は、最大値「11 m/s」で、出現時間の合計値は「1時間」、風向は「WSW」とした。

写真1は、Cold Blowが所在する丘を南の山麓から見たものである。右側の斜面を登って現地（標高約120メートル）に向かう。写真2は、Cold Blowの現状である。現在、建物は一切なく、居住する者はいない。これは2024年8月29日に撮影した。



写真1



写真2

## 2. 一日ごとの風速と最大風速の最大値の比較

表1は、EM(CB) (表1内ではEM) とFsにおけるデータ収集期間各日の風速 (Wind Speed) 及び最大風速 (Wind Gust) の各最大値 (Maximum, Mx.) とそれぞれが予報された時間の合計 (Hours, Hrs) を示す。「Date」列の「1226」は12月26日を意味する。右端は、風速の最大値に対する最大風速の最大値の倍率 (Mx.WG/Mx.WS) である。これは、冬の「風の強さ」を測る参考値として、該当日に風速の何倍程度の最大風速が予報されたかを示す。「Average」行は各指標の70日間を通した平均値, 「Total」行は各「Hrs」列の合計である。表1では、日ごとに両地点の比較を容易にすることを目的として、「Wind Speed (m/s)」及び「Wind Gust (m/s)」の各指標では「Mx.」列の値が大きい方の枠に、また双方の値が同じ場合は「Hrs」列を含む連続する4つの枠にグレーの網かけを施した。一方、右端の「Mx.WG/Mx.WS」では値が大きい方の枠に、また双方の値が同じ場合はそれぞれの枠にグレーの網かけを施した。

表1 EM (CB) 及びFsにおける一日ごとの風に関するデータ

Date	Wind Speed (m/s)				Wind Gust (m/s)				Mx.WG/Mx.WS	
	EM		Fs		EM		Fs		EM	Fs
	Mx.	Hrs	Mx.	Hrs	Mx.	Hrs	Mx.	Hrs		
1226	5	6	6	5	10	1	9	1	2.00	1.50
1227	7	2	7	11	12	4	12	10	1.71	1.71
1228	10	1	10	2	18	1	18	1	1.80	1.80
1229	9	1	9	2	16	1	16	2	1.78	1.78
1230	9	5	9	5	16	8	16	3	1.78	1.78
1231	9	3	9	5	17	6	18	1	1.89	2.00
101	7	17	7	1	15	1	13	1	2.14	1.86
102	10	1	11	2	19	1	19	1	1.90	1.73
103	7	12	8	3	15	1	14	7	2.14	1.75
104	7	7	9	2	13	5	14	2	1.86	1.56
105	7	11	7	4	14	3	13	4	2.00	1.86
106	10	3	11	3	18	1	18	1	1.80	1.64
107	7	4	7	1	12	10	13	1	1.71	1.86
108	10	1	11	1	17	2	18	1	1.70	1.64
109	7	2	6	5	14	1	13	4	2.00	2.17
110	6	4	7	1	11	1	10	4	1.83	1.43
111	7	5	7	13	12	2	11	1	1.71	1.57
112	4	4	5	3	7	2	8	5	1.75	1.60
113	3	9	3	9	4	10	5	2	1.33	1.67
114	3	8	4	1	6	3	6	1	2.00	1.50
115	5	1	5	3	7	8	7	4	1.40	1.40
116	5	2	4	10	11	1	9	1	2.20	2.25
117	4	7	5	5	9	2	9	2	2.25	1.80

118	3	3	3	5	4	7	4	6	1.33	1.33
119	6	6	6	6	12	1	11	3	2.00	1.83
120	7	4	6	6	12	1	11	11	1.71	1.83
121	4	22	5	12	10	3	11	5	2.50	2.20
122	5	2	6	1	11	2	12	1	2.20	2.00
123	3	4	4	3	5	6	5	5	1.67	1.25
124	3	1	3	14	5	2	5	4	1.67	1.67
125	3	1	3	5	5	1	5	1	1.67	1.67
126	5	2	5	4	11	1	10	2	2.20	2.00
127	7	5	6	10	15	1	13	4	2.14	2.17
128	6	4	6	3	12	4	11	2	2.00	1.83
129	10	1	9	1	17	1	16	1	1.70	1.78
130	8	1	8	1	15	2	14	1	1.88	1.75
131	10	7	9	5	18	6	17	5	1.80	1.89
201	7	8	7	6	14	3	13	6	2.00	1.86
202	6	4	6	4	11	1	10	8	1.83	1.67
203	6	2	6	2	12	1	11	2	2.00	1.83
204	9	3	10	2	16	3	17	1	1.78	1.70
205	10	5	10	7	18	5	18	1	1.80	1.80
206	12	1	11	2	21	1	20	2	1.75	1.82
207	7	5	7	3	15	1	14	1	2.14	2.00
208	7	5	7	6	13	4	13	1	1.86	1.86
209	6	12	7	3	12	4	13	1	2.00	1.86
210	6	2	6	2	12	2	12	1	2.00	2.00
211	5	3	5	3	12	2	11	4	2.40	2.20
212	9	9	10	3	16	6	15	2	1.78	1.50
213	12	1	12	3	21	1	20	4	1.75	1.67
214	12	1	14	1	23	1	22	1	1.92	1.57
215	11	1	12	2	19	1	19	2	1.73	1.58
216	14	2	14	1	24	2	23	3	1.71	1.64
217	11	2	11	1	21	2	21	1	1.91	1.91
218	17	1	19	1	30	1	33	1	1.76	1.74
219	13	2	15	1	24	1	25	1	1.85	1.67
220	14	1	14	4	24	3	25	1	1.71	1.79
221	14	2	13	2	25	1	23	2	1.79	1.77
222	9	3	10	1	17	2	18	1	1.89	1.80
223	8	3	9	2	14	3	14	4	1.75	1.56
224	11	1	11	2	19	1	18	2	1.73	1.64
225	8	1	7	3	14	7	14	1	1.75	2.00
226	6	7	7	4	11	4	11	2	1.83	1.57
227	6	13	7	14	12	3	12	1	2.00	1.71
228	6	13	8	4	13	2	12	5	2.17	1.50
301	4	13	5	4	9	1	7	9	2.25	1.40
302	5	10	6	4	9	8	9	1	1.80	1.50
303	4	2	3	24	7	4	6	4	1.75	2.00
304	4	5	4	7	8	1	7	6	2.00	1.75
305	6	8	7	4	11	3	11	16	1.83	1.57
Average	7.47	4.71	7.80	4.36	13.89	2.83	13.59	2.99	1.88	1.75
Total		330		305		198		209		

まず、下段の「Average」行が示す通り、風速、すなわち「Wind Speed (m/s)」の最大値 (Mx.) の平均値を比べると、EM (CB) よりFsの方が大きい。Fsの方が大きい日は計28日 (40.00%) となるのに対して、EM (CB) の方が大きい日は計10日 (14.29%) にとどまる。次に最大風速、すなわち「Wind Gust (m/s)」の最大値 (Mx.) の平均値では、EM (CB) の方が大きい。EM (CB) の方が大きい日は計32日 (45.71%) に及ぶが、Fsの方が大きい日は計14日 (20.00%) に過ぎない。また、風速及び最大風速の各最大値が予報された時間 (Hrs) の合計については、「Total」行が示す通り、前者においてはEM (CB) が、後者においてはFsが他方を上回る。そして最後に「Average」行右端に示した風速の最大値に対する最大風速の最大値の倍率、すなわち「Mx. WG/Mx. WS」の平均値では、EM (CB) の方が大きい。EM (CB) の方が大きい日は計45日 (64.29%) に達する一方で、Fsの方が大きい日は計13日 (18.57%) しかない。

このように表1が示す結果から、EM (CB) は風速の大きさではFsにやや劣るが、予報された勢力が持続する時間ではFsより相対的に長いこと、またFsよりも大きな勢力の最大風速が相対的に短い時間のうちに生じることが明らかになった。これらの点を総合的に評価すれば、冬における「風の強さ」という点で、Fsに対するEM (CB) の優位性を認めても差し支えないであろう。

### 3. 最大風速の最大値における方位別割合の比較

続いて、最大風速 (Wind Gust) の最大値とその風が出現する時間の合計値に対する割合を方位別に見てみよう。

表2及び表3はEM (CB)、Fsそれぞれについて、最大風速の方位 (Direction) 別に、出現時間 (Hours) の合計値及び同数値の全体 (Total) に占める割合 (%) を示す。図1及び図2は、各表の割合 (%) を基準に作成した各地点の風配図 (wind rose) である。両者は全く異なる状況を呈している。すなわちEM (CB) では、WSW及びSWが極度に突出し、かなりの差を隔ててW及びWNWが続いている。一方Fsでは、NNW及びNWが突出し、これらにWSW及びSWが続いている。2021年6月28日から9月5日の間の天気予報に基づいて、ケント州Ripple行政教区所在のColdblow Farmと同州東部の中核都市Canterburyの風配図を比較した研究では、ともに「北から北東よりの風」と「南西よりの風」が卓越し、両

表2 EM (CB) における風向

Direction	Hours	%
N	2	1.01
NNE	4	2.02
NE	1	0.51
ENE	0	0.00
E	0	0.00
ESE	11	5.56
SE	13	6.57
SSE	7	3.54
S	14	7.07
SSW	17	8.59
SW	29	14.65
WSW	46	23.23
W	18	9.09
WNW	18	9.09
NW	16	8.08
NNW	2	1.01
Total	198	100.00

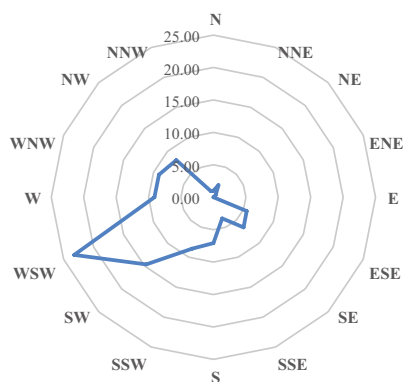


図1 表2の風配図

表3 Fsにおける風向

Direction	Hours	%
N	8	3.83
NNE	6	2.87
NE	4	1.91
ENE	2	0.96
E	4	1.91
ESE	5	2.39
SE	9	4.31
SSE	10	4.78
S	11	5.26
SSW	19	9.09
SW	23	11.00
WSW	24	11.48
W	14	6.70
WNW	28	13.40
NW	10	4.78
NNW	32	15.31
Total	209	100.00

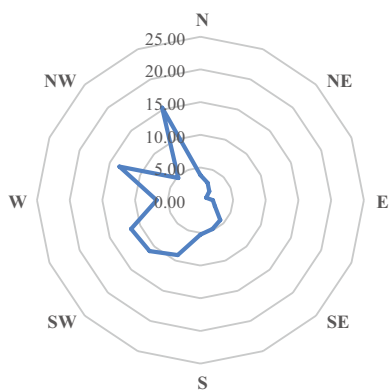


図2 表3の風配図

地点とも夏にはドーヴァー海峡の走向に沿う海洋性の風が優勢となる可能性を指摘した<sup>(13)</sup>。しかし今回の冬の結果は、EM (CB) では海洋性に続く内陸性、逆にFsでは内陸性に続く海洋性の順で優勢となる風向に明らかな序列があり、それぞれ異なる性質の冬の強風に晒される可能性を想定する必要があるようである。

#### 4. 方位別最大風速の最大値の平均値の比較

では、どの方位から吹く風が特に強い風となるのだろうか。表4及び表5は、それぞれの地点について、方位 (Direction) 別に最大風速の最大値の平均値 (Wind Gust, Average) を、出現時間 (Hours) の合計値及び同数値の全体 (Total) に占める割合 (%) とともに示すものである。このため、「Hours」列及び「%」列の数値は、第3章に掲げた表2及び表3の各中列・右列のものと同一である。また最下段に付した「Average」欄内の値は、直上に連なる「Wind Gust, Average」列の値からではなく、右隣の「Total」欄内に示す合計時間を構成する各時間の最大風速の値から算出した平均値である。

表4 EM (CB) における風の強さ

Direction	Wind Gust, Average	Hours	%
N	7.00	2	1.01
NNE	9.50	4	2.02
NE	5.00	1	0.51
ENE	no forecast	0	0.00
E	no forecast	0	0.00
ESE	8.55	11	5.56
SE	8.54	13	6.57
SSE	6.14	7	3.54
S	9.64	14	7.07
SSW	14.59	17	8.59
SW	16.66	29	14.65
WSW	13.76	46	23.23
W	12.22	18	9.09
WNW	12.39	18	9.09
NW	12.38	16	8.08
NNW	12.50	2	1.01
	Average: 12.47	Total: 198	

表5 Fsにおける風の強さ

Direction	Wind Gust, Average	Hours	%
N	9.13	8	3.83
NNE	11.00	6	2.87
NE	5.00	4	1.91
ENE	7.00	2	0.96
E	7.50	4	1.91
ESE	6.20	5	2.39
SE	6.11	9	4.31
SSE	8.50	10	4.78
S	11.91	11	5.26
SSW	13.74	19	9.09
SW	16.22	23	11.00
WSW	15.50	24	11.48
W	14.00	14	6.70
WNW	11.54	28	13.40
NW	12.50	10	4.78
NNW	10.59	32	15.31
	Average: 11.93	Total: 209	



まず、各表最下段の「Average」欄内の値から、総じてEM (CB) における風の強さが、Fsのそれに優越することがわかる。「Total」欄内の値が示すように、総時間ではFsにやや劣るが、冬の強風という点では、Fsに対するEM (CB) の優越性を十分に認め得るものである。

次に、第3章に掲げた風配図（図1及び図2）との相関を検証することを目的として、各地点において「Average」欄内の値（以下、「Average値」）以上の風速となる方位を確認すると、EM (CB) ではSSW, SW, WSW, NNWの4方位となるのに対して、FsではSSW, SW, WSW, W, NWの5方位となる。EM (CB) の風配図（図1）では、WSWが極度に突出し、これにSWが続くという形であるから、当該地については、強い風が吹く割合の高い方位と風の強さに、ある程度の相関を認めることが可能と思われる。一方、Fsはかなり状況が異なる。すなわち、風配図（図2）でNNW, WNWに次いで突出するSW及びWSWにはかなりの相関を認めることはできるが、最も突出するNNWとそれに次ぐWNWの風速は、いずれも当該地の「Average値」以下で比較的弱い。それに対して、風配図（図2）ではともに谷部を形成するWとNWの風が、いずれも「Average値」以上となっておりかなり強い。このように、FsについてはW, WNW, NW, NNWの方位群が風配図とは明らかに相関しない。

さらに、方位別にEM (CB) とFsの値を個々に比較すると、NからSまでは総じてFsの値が大きいのにに対して、SSWからNNWの範囲では拮抗している。この結果をCold Blowが意味すると思われる「風の強さ」に関連付けると次のようになる。詳細に見ると、まずNからSの範囲では、Fsの優位性が窺える。それは、FsがN, NNE, ENE, E, SSE, Sの6方位でEM (CB) を上回るのに対して、EM (CB) がFsを上回るのはESE, SEの2方位に過ぎないからである。しかしこの9方位における両地点の値は、すべて当該地の「Average値」以下でしかない。すなわち、Cold Blowにおける「風の強さ」に関する考慮からは、除外して差し支えない。これに対してSSWからWSWの3方位の値は、両地点ともすべてそれぞれの「Average値」を大きく上回り、最も強い風が吹く方位群となる。風速の幅はEM (CB) で13.76～16.66 m/s, Fsで13.74～16.22 m/sとなり、前者の優位性が明らかである。またこの3方位には、「Hours」列が示す通り、EM (CB) で計92時間（46.5%）、Fsで計66時間（31.6%）に及ぶ強い風が集中し、特にEM (CB) では、「Hours (%)」列の値がWSW及びSWでの

み2桁となって、強風をもたらす方位としての局地的特性を強調する結果となっている。一方、WからNNWに至る4方位の値には、両地点間の明らかな違いが読み取れる。すなわち、EM (CB) の値はいずれも当該地の「Average値」に近接し、12 m/s台で安定しているのに対して、Fsでは、当該地の「Average値」以上となるのはW及びNWのみであり、「Average値」以下となるWNW及びNNWの値との差が著しい。上で述べた通り、Fsではこれら4方位の風速と風配図(図2)に相関を認めることは困難だが、状況はCold Blowの代替指標として扱うEM (CB) についてもほぼ類似している。すなわち、当該地のWからNNWに至る各方位の風速は、SSWからWSWの3方位に次ぐ大きさとなる12 m/s台で一貫しながらも、風配図(図1)からは読み取れない「北西より」の強い風となっているのである。

以上、本章での考察の結果、冬においては総じてFsよりもEM (CB) の風が強いことが明らかになった。特にSSWからNNWに至る7方位、すなわち記号の中に「W」を含む「西より」の風が強い。中でもSSW, SW, WSWの3方位に見られる風速の大きさ、さらにSW及びWSWに集中する強風の総時間は、EM (CB) の気候特性の局地的側面に見立てることさえ可能と思われ、注目に値する。このような傾向をさらに強化するのが、WからNNWの範囲から吹く強風である。これら4方位の風速は、いずれもSSW, SW, WSWに次ぐ水準で安定し、まとまった「北西より」の風となる。これはFsとの差別化だけでなく、Cold Blowにおける冬の「風の強さ」の前景化にも貢献している。

## 5. おわりに

本稿では、Met Officeの天気予報から得られる冬の気象データによって、地名Cold Blowの第2要素*blow*の意味の原点と思われる「風の強さ」について考察した。今回取り上げたKent州Temple Ewell 行政教区所在のCold Blowは、その結果、最寄りの予報地点となるEwell Minnisの天気予報から得られるデータを代替指標とする限りにおいて、10キロ圏内にある海辺の都市Folkestoneに、冬における「風の強さ」という点で優越し、特に最大風速が大きいたことが明らかになった。冬の間、ドーヴァー海峡が眼前に広がる平坦な場所よりも、総じて風が強いという今回の結果を踏まえば、Cold Blowの第2要素*blow*は「一陣の風 (“blast of wind”)」を意味し得るとみなして差し支えないと思われる。

こうした強風が流入する方位は、夏とは違って両地点間の差異が際立ち、Cold Blowの場合は南西よりが極度に突出し、これに北西よりが安定的に後続することが明らかになった。特に後者、すなわち W, WNW, NW, NNW の4方位は、夏同様、風の流入経路としての割合は小さいが、比較的強い風が吹く方位群であり、冬のCold Blowにおける「風の強さ」を支える重要な役割を演じている。またこれら4方位のうち、WNW, NW, NNW の3方位は北よりでもあることから高緯度、時に北極圏の冷気を内陸性の大気となってCold Blowにもたらし、冬の当地における「寒さ（気温の低さ）」の強化にも貢献しているのではないだろうか。これは、Cold Blowの第1要素*cold*に関わる部分であり、今後さらなる考察を深めるべき課題の一つである。

## 注

- 1 宅間 (2022) 91-92 頁参照。
- 2 宅間 (2021) 105-106 頁参照。
- 3 Cold Blow の地図上の位置については宅間 (2022) 92 頁図1, 概要については同 94 頁参照。なお、Streetmap のウェブサイト<<https://www.streetmap.co.uk/>>にアクセスし、検索窓に「626853, 144716」の文字列を入力して「Go」ボタンをクリックし、表示された地図を画面右下のZoom Controlで下から3段目の「1:25000」に調整すれば、Ordnance Survey (英国陸地測量部) による地図 (以下、OS map) 上のCold Blowを閲覧できる。
- 4 Watts (2004), *Coldblow* 参照 (149 頁)。
- 5 Parsons, D. N. and Tania Styles (1997), 110 頁参照。MEはMiddle English (中英語) で、概ね1100から1500年頃までの英語をいう。
- 6 研究社『新英和大辞典』, *blow*<sup>1</sup> 参照。
- 7 OEはOld English (古英語) で、概ね700年から1100年頃までの英語をいう。*Oxford English Dictionary*, *blow* n<sup>2</sup> 及び*Middle English Dictionary*, *blow* n 参照。
- 8 Wallenberg (1934), 452 頁参照。
- 9 Cullen (1997), 734 頁参照。
- 10 Ewell MinnisはCold Blowの南南西約1.7キロ地点に所在する集落である。この方位と距離に関する情報は、Googleマップ上でCold BlowとEwell Minnisの共有緑地 (village green) を結ぶことによって得られたものである。この共有緑地の標高は約132メートルで、Cold Blowの標高約120メートルにかなり近い。なお、注3で紹介したStreetmapの検索窓に「626091, 143237」を入力して「Go」ボタンをクリックし、表示された地図をZoom Controlで「1:25000」または「1:50000」に調整すれば、OS map上の位置を確認できる。
- 11 本文中に示した方位と距離に関する情報は、Googleマップ上でCold Blowと

Folkestone市内所在の教区教会Saint Mary and Saint Eanswytheを結ぶことによって得られたものである。同教会は、眼下にドーヴァー海峡が広がる標高約33メートルの段丘上に立地する。なお、Streetmapの検索窓に「622951, 135871」を入力して「Go」ボタンをクリックし、表示された地図を「1:25000」に調整すれば、OS map上の位置を確認できる。

- 12 気象の分析は本来、予報値ではなく、実際に観測されたデータに基づいて行われるべきものである。しかし、本稿で扱うEwell Minnis及びFolkestoneはいずれも予報地点であって観測地点ではない。そのため、現地の観測データは入手できない。こうした事情により、それぞれの天気予報から得られる予報値としての風に関する気象データに基づいて考察を進める点を了承願いたい。
- 13 宅間（2023）194頁参照。

## 引用文献

### Online Resources

Cullen, Paul. “The place-names of the Lathes of St Augustine and Shipway, Kent.” unpublished Ph.D thesis, University of Sussex, 1997. <<https://ethos.bl.uk/OrderDetails.do?uin=uk.bl.ethos.263152>>, downloaded 2 May 2021.

Ewell Minnis (Kent), the forecast page of the Met Office.

<[https://www.metoffice.gov.uk/weather/forecast/u10fun2jx#?nearestTo=Lydden%20\(Kent\)&date=2024-10-21](https://www.metoffice.gov.uk/weather/forecast/u10fun2jx#?nearestTo=Lydden%20(Kent)&date=2024-10-21)>, last accessed 21 October 2024.

Folkestone (Kent), the forecast page of the Met Office.

<<https://www.metoffice.gov.uk/weather/forecast/u10fdduzb#?date=2024-10-21>>, last accessed 21 October 2024.

*Middle English Dictionary*. <<https://quod.lib.umich.edu/m/middle-english-dictionary/dictionary>>, last accessed 20 October 2024.

*Oxford English Dictionary*. <<https://www.oed.com/?tl=true>>, last accessed 20 October 2024.

Streetmap – Maps and directions for the whole of Britain. <<https://www.streetmap.co.uk/>>, last accessed 20 October 2024.

### Published works

Parsons, David and Tania Styles with Carole Hough. *The Vocabulary of English Place-Names (A-BOX)*. Nottingham: Centre for English Name Studies, 1997.

Wallenberg, Johannes Knut. *The Place-Names of Kent*. Uppsala: Appelbergs Boktryckeriaktiebolag, 1934.

Watts, Victor. *The Cambridge Dictionary of English Place-Names*. Cambridge: Cambridge University Press, 2004.

宅間雅哉「古英語 *cald* または *cōl* を構成要素とするイングランドの地名—気候地名収集のためのソース拡大—」『東京未来大学研究紀要』15号, 東京未来大学, 101-109頁, 2021年。

——「イングランドの地名 Coldblow に関する基礎研究」『東京未来大学研究紀要』16号, 東京未来大学, 91-98頁, 2022年。

- 「天気予報から得られるデータをもとに Coldblow という地名の由来をさぐる  
(2021年夏)—Ripple行政教区Coldblow Farmを対象としたパイロット・スタディー」  
『東京未来大学研究紀要』17号, 東京未来大学, 191-198頁, 2023年。  
竹林滋(編集代表)『新英和大辞典』第6版, 東京: 研究社, 2002年。

